

教育目標	① 高い技術力や経営力を備えた意欲的な農業者等の育成 ② 農業・農村の発展に貢献できるリーダー等の育成		○達成度				
重点目標	1.優秀な入学者の確保 2.高い技術力や経営力の習得 3.全ての学生の進路決定 4.農業者研修の充実		A:十分達成できている(100%以上) B:概ね達成できている(100%未満～80%以上) C:やや不十分である(80%未満～60%以上) D:不十分である(60%未満)				
目標	評価項目	令和2年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 優秀な入学者の確保	受験者数	・受験者30名以上	○農大の情報の発信 ホームページを各専攻月1回以上更新 講義・実習等の週1回以上の写真撮影、ホームページ掲載 校内でホームページ操作研修会の開催 広報紙「緑旗」の配布、新聞等広報媒体への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを概ね毎月1回更新。 ・農産物直売や実習等週1回の撮影を実施。 			
			○各機関・団体への周知 全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙に学生募集の掲載依頼 県広報紙への掲載 全ての高校訪問、募集要項、ポスター等の配付 農大の募集説明会への参加 10校以上 高校への進路ガイダンスへの参加 10回以上 地区別懇談会や同窓会組織を活用した学生募集推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全てのJA、市町、農業委員会へ掲載を依頼。 ・各普及センターの広報紙に掲載を依頼。 ・全ての高校へ募集要項・ポスターの配布、志願希望者数の聞き取りを実施。 ・募集説明会の開催。 ・農業系高校を中心にガイダンスへの参加。 ・PR用クリアファイルをガイダンスやオープンキャンパスで配布。 ・地区別懇談会で学生募集のPRを実施。 			
			○農業系高校等との連携強化 農業系高校連絡会議の開催 農大への現地研修の受け入れ及び農業系高校への出前授業への積極的参加10回以上 高校生の農大施設訪問3回 未来さが農業塾生徒の農大訪問等の積極的情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・農業系高等学校長との連絡協議会の開催。 ・農業系高校を中心に募集説明会を開催。 ・農業系高校へ出張講義を実施。(延べ11回) ・農校生の農大施設訪問を実施。 ・未来さが入塾、生徒と農大生との交流を実施。 			
	オープンキャンパスの参加数	・オープンキャンパス参加者40名以上	○農業系高校等との連携強化 農業系高校連絡会議の開催 2回 オープンキャンパスの開催 3回 在校生との交流会の実施 ○農大の情報の提供 ホームページを各専攻月1回以上更新 講義・実習等の週1回以上の写真撮影	<ul style="list-style-type: none"> ・農業系高等学校長との連絡協議会を開催。 ・農業系高校を中心に募集説明会を開催。 ・オープンキャンパスの開催。 ・オープンキャンパス時に在校生との交流を実施。 ・ホームページの概ね毎月1回の更新。 ・農産物直売や実習等週1回撮影、ホームページへの掲載。 			

目標	評価項目	令和2年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 優秀な 入学者の 確保			<p>○各機関・団体への周知</p> <p>全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙にオープンキャンパスの掲載依頼</p> <p>県広報紙への掲載、広報媒体を活用したPR</p> <p>全ての高校訪問、募集要項、ポスター等の配付</p>	<p>・高校訪問を6～7月に実施。</p>			
	・専修化の円滑化	・専修化カリキュラムの構築(R2年度入学生)	・大学、関係機関とカリキュラムの調整・見直し	<p>・佐賀大学との調整。</p> <p>・令和2年度からのカリキュラム検討。</p> <p>・日本学生支援機構奨学金の円滑な申請支援。</p>			

目標	評価項目	令和2年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	高い技術力や経営力の習得	【水田農業】 ○栽培管理技術の習得 ・播種から収穫・乾燥調製までの栽培管理技術の習得 ・スマート水田農業に関する知識の習得 到達した学生の割合 100%	・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認 ・学生による栽培計画書の作成指導 ・研究機関等との連携により最新の栽培技術の習得	・米麦大豆の基礎的な生理生態、基礎知識の指導。その確認のため、実習試問によって理解度を確認。 ・米麦大豆の播種から収穫、乾燥調製まで一連の作業を解説し、後日、質疑や作業日誌等での理解度を把握。 ・現地講義を活用したスマート水田農業の現地実証の学習（九州沖縄農業研究センターの現地実証事業） ・「アグリベースにいやま」での作業見学等 ・ITセンサーを使った圃場見回りの省力化試験（農試との連携） ・ドローンを使った水稻防除の実演			
		○農業機械の基本操作と維持管理の習得 ・一連の作業が機械で出来る到達学生の割合 100% 到達した学生の割合 100%	・農業機械の操作指導 ・作物栽培と連動した機械作業の習得指導 ・機械作業ポイントの作成と他学生への説明会の開催	・農業機械の基本操作及び圃場作業の手引書を作成させる。 ・専攻内で機械操作のポイントを発表させ情報の共有を図り、操作の取得を行う。 ・大型特殊（農耕車）免許および、けん引（農耕車）フォークリフト免許の全員取得。			
	高い技術力や経営力の習得	【露地野菜】 ○栽培管理技術の習得 ・播種から収穫までの栽培管理技術の習得 到達した学生の割合 100%以上	・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認 ・学生による栽培計画書及び栽培暦の作成指導 ・農業技術検定（3級、2級）	・毎日の実習記録と観察記録日誌を実施 ・農業試験研究センターとの連携によるプロジェクト課題の実施 ・農業検定に向けた専門的知識に関する勉強会の実施 ・新規品目や品種の導入及び試作の実施			
		○農業機械の基本操作と維持管理方法の習得 ・一連の作業が機械操作ができる学生の割合 100%以上	・農業機械の操作指導 ・農業機械の仕業点検方法の指導	・トラクター、防除機、定植機、収穫機、管理機等の操作実習の実施 ・機械等の点検の実施			

目標	評価項目	令和2年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	高い技術力や経営力の習得	【施設野菜】 ○IoT機器を活用した栽培管理技術の習得 ・IoT機器が活用できる学生の育成 100%	・観察記録と栽培作業日誌の記帳確認 ・IoT機器を活用した環境管理の指導	・毎朝の観察と作業日誌記録によって、観察に基づいた管理の意識付けを指導実施。 ・環境測定機器の取り扱い方法の指導実施。 ・温度と植物の生育の関係を、実際の栽培を通じて把握実施。 ・天気予報を活用した環境設定の指導実施。			
		○経営能力の向上 ・担当する品目の所得の把握ができる 100%	・作型毎の作付け計画の作成指導 ・経営記帳の指導	・プロジェクト課題設計検討会と中間検討会を実施し、専門技術員と試験研究員から助言をいただき、効率的・効果的な研究に取り組めるよう指導を実施。 ・プロジェクトで取り組む作物での収量・品質・経費等の記録指導。 ・プロジェクト課題のとりまとめにおいて、所得を算出させる。			
		○GAPの実践を通したよりよい施設園芸の実践 ・GAPを実践できる学生の育成 100%	・施設野菜の実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方、実施方法を、講義・実習で指導実施。 ・使用資材・機材の整理・整頓の実施指導。 ・使用資材の使用履歴の記帳指導。			
		【花き複合】 ○花き栽培に関する基礎知識の習得 ・主要花きの育苗から収穫までの一連の栽培技術の基礎知識を習得到達した学生の割合 100%以上 ※	・作業日誌の記帳確認 ・主要栽培品目の、播種、育苗から栽培、収穫まで一連の生態、栽培管理の基礎知識及び栽培技術取得特に担当品目(卒論課題)を決定後はその栽培計画の作成 さらに、担当以外の品目での作付け計画、栽培管理の実践 ・農業技術防除センターや農業試験研究センターからの卒論プロジェクト課題等に関する情報提供等の支援	・主要品目の基礎的な生理生態、基礎知識の指導を実施。その確認のため、作業日誌で理解度の向上を指導。 ・上記品目の播種から栽培、管理、収穫まで一連の作業を解説し、後日質疑や作業日誌等での理解度の確認。 ・担当品目以外の品目栽培のための作付け計画、実践の指導 ・関係機関(農業技術防除センター、農業試験研究センター、農業改良普及センター)と連携し、卒論の課題は地域課題解決に取り組めるよう計画を策定。			
		○花きの品質保持及び6次加工に関する技術の習得 品質保持及び加工技術の習得到達した学生の割合 100%以上 ※	・収穫後の花きの鮮度保持技術、フラワーアレンジメントなど加工等による流通、消費技術の指導	・収穫後の品質保持技術の知識及び技術の取得。また、6次加工(染色やフラワーアレンジメント、ラッピング)等の技術を学び、直売や収穫祭を通して消費動向の学習指導。			

目標	評価項目	令和2年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	高い技術力や経営力の習得	【果樹複合】 ○主要常緑・落葉果樹の栽培技術の習得 到達した学生の割合 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・主要常緑・落葉果樹の生理生態理論について指導 ・1年生時から進路に合わせた担当品目を設定 ・果樹の高品質・安定生産技術の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前に各樹種における生育ステージ毎の理論を講義し、実習終了時に気づきおよび感想を整理させ習熟度の確認を ・品目毎に栽培管理計画書を作成指導し、担当品目は生産から販売までの一貫体制で指導を実施。さらに、品目毎に質疑を実施し習熟度の確認を実施。 ・生育調査、果実分析、土壌診断等を実施し高品質果実生産のための管理技術の習得を実施。 ・温州ミカン、ブドウの根域制限栽培およびナシジョイント栽培技術について、圃場設計および栽培技術等の高度な実習を ・卒論プロジェクト課題等について、農業技術防除センターや果樹試験場と連携し課題解決の方策の指導を実施。 			
		○経営能力の向上 果樹経営特性を理解到達した学生の割合 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹経営特性の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当品目の労働時間、使用資材、収量、販売金額等についての記帳を指導。 ・統計資料等と記帳結果と比較した問題点の整理を指導。 ・プロジェクト課題等において比較検討し経営改善点の整理を実施。 			
		【畜産】 ○繁殖生理の学習と繁殖技術の習得 到達した学生の割合 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜の性周期、発情兆候の理解 ・家畜人工授精技術の習得及び技術の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖牛発情観察記録表への記入 ・妊娠期間の調査 ・家畜人工授精講習会を受講し、基本技術の習得を実施。 ・家畜人工授精の実施 ・畜産試験場での実習実施 30回/年以上 			
		○家畜栄養の学習 到達した学生の割合 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料給与技術の習得 ・各畜種(乳牛、和牛、豚)の飼料給与技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料給与基本プログラムに基づいた飼料給与の実践 ・発育状況把握のための体測実施 毎月 子牛の発育状況確認のための子牛セリへの参加 ・畜産試験場での実習実施 31回/年以上 			
		○家畜ふん尿処理及び利用技術の学習 到達した学生の割合 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・糞尿の堆肥化処理技術の習得 ・堆肥の散布技術の習得 ・発酵舎などを利用した堆肥処理方法の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・堆肥舎での関連作業機械を操作した堆肥化処理の作業実習を実施 ・堆肥化に伴う堆肥の温度変化観察の実施 ・ローダーやマニアスプレッタ等の作業機械を用いた圃場散布作業実習の実施 ・畜産試験場での実習実施 30回/年以上 ・夏作、冬作の飼料作物栽培実践 			
		○飼料作物栽培の学習 到達した学生の割合 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な飼料作物生産技術の習得 ・作業機械操作技術の向上 ・トウモロコシ等様々な飼料作物の栽培技術習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業機械を用いた耕起、施肥、播種、収穫、調整に関する実習の実施 ・飼料作物生育状況の観察の実施 ・畜産試験場での実習実施 30回/年以上 			

目標	評価項目	令和2年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	・高い技術力や経営力の習得	【農産加工】 ○農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得 ・穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術の習得到達した学生の割合80%以上 ※	○漬物、惣菜、ソース、菓子、製粉・乾燥・レトルト等の加工等演習の実施 (1年生) ・食品衛生及び野菜・果実・穀類等を使った食品加工に関する基礎的な知識・技術習得のための演習の実(2年生) ・農産物の食品加工技術及び商品づくりの基礎知識、包装・ラベル作成等を習得するための演習の実施	○穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術習得 ○農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得(1年、専科) ・食品衛生法や食品表示に関する基礎知識の習得 ・加工演習は一次加工を実施。 ・シーラー機やカップシール機等の基本的な機材操作習得。(2年) ・レトルトコンポート等のより高度な2次加工技術の習得 ・真空包装機やレトルト殺菌機等の高度な機材の実習。			
		○学生発案によるオリジナル商品の開発、定番化1商品以上	・農産加工研究会(学生の自主組織)への指導 ・直売での販売動向の把握及び分析	○農産加工研究会による試作研究 学生の提案をもとに、農大産の農産物を利用した試作研究。 ・学生発案によるオリジナル商品化に向け支援。 ・直売での販売動向の把握;製造・販売・製造物品質検査記録の記帳の実施による販売動向の把握。			
		【資格等の取得向上】 ○カリキュラムの中で必要な資格の合格率100% <small>※大型特殊免許、けん引免許、家畜人工授精師等</small> ○選択性の資格の合格率 50%以上 <small>※農用車両運転、危険物取扱者、家畜商、ボイラー、フォークリフト、狩猟免許等</small>	○研修の充実 ・受講期間中、合格レベルに達しない者には、適宜補講を行うなどして免許取得レベル向上の指導を実施 ・資格や免許に対応した特別講義の開催 ・小テストの実施及び解説 ・過去問題を活用した指導	○必須の免許・資格の取得 ・農耕用大特免許 ・農耕用けん引免許 ・家畜人工授精師 ○選択性の免許・資格の取得状況 ・農業技術検定2級 ・農業技術検定3級 ・危険物取扱者 ・毒劇物取扱者 ・フォークリフト ・小型車両系建設機械 ・ボイラー ・狩猟免許 ・家畜商 ・特別講義の開催、過去問題を活用した指導等を実施する。			
3 全ての学生の進路決定	・就農・就職決定率	就農・就職率100%	○就農・就職指導の強化 ・進路指導を行う専任職員の配置 ・社会人としてのキャリア教育の実践 5回 ・農業次世代人材投資事業(準備型)の支援 ・先進農家(農業法人を含む)視察研修の実施 3回 ・若手農業者との意見交換会の開催 2回 ・農業大専攻での農業法人、企業等の会社説明会の実施 10回 ・ハローワークとの連携 5回 ・求人情報の提供 随時 ・インターンシップの積極的推進 ・1年生からの進路指導の強化	○就農・就職決定率 100% ・進路指導専任職員(非常勤)の配置 ・2年生を対象にキャリアプランニングの講義 4~6月に5回 ・1年生を対象に3月にキャリアプランニング講義を実施。 ・会社説明会の開催 (4社以上) ・求人情報の提供 63社以上 ・ジョブカフェ佐賀と連携した進路指導の強化			

目標	評価項目	令和2年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者研修の充実	・大型特殊(農耕車)、農耕用けん引の免許取得	・受講待機者の削減 ・免許合格率:95%以上	・受講待機者の状況に併せた研修回数の設定 ・研修の受講辞退者にも対応した受講者の調整 ・操作技術(特に、けん引)の指導方法の工夫	・待機者数を考慮し、農耕用けん引を7回→6回、大型特殊(農耕車)を15回→17回とする。 ・直前にキャンセルした受講者や、2年以上未受講者へのペナルティを検討(直前にキャンセルした人は民間での取得を促し、長期未受講者には再度意思確認を行う)。 ・市町と受講待機者の情報を共有化 ・年度当初に、県機関等に受講生を募集。 ・模範操作の動画や機械模型の作成・活用。 ・受講生が理解しやすいように実習の指導方法の工夫を実施。			
	(さが農業経営塾) 受講者数	・受講者数(定員の確保) 10名	・農業士、青年農業士、女性農業者、農業青年クラブ員、農業法人協会会員、過去の受講者、市町、JA青年部等への周知	・普及センターでの青年農業者や女性農業者を対象とし、プロモーションビデオの活用 ・農業士、青年農業士、農業青年クラブ員、農業法人協会会員、過去の受講者等へのDM送付 ・新聞(2社)、HP等を活用した情報提供			
		・受講者の満足度 80%以上	・オリエンテーション(講座前に実施) ・受講者へのアンケート調査の実施 ・運営委託業者と調整	・アンケート調査を毎回実施し受講者の理解度を把握 ・アンケート調査結果をもとに研修内容を調整			

目標	評価項目	令和2年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者 研修の 充実	(農産加工支援研修) 受講者数	・受講者数の確保 2講座 15名	・農業青年クラブ員及び女性組織等への周知	・普及センター、農政企画課、さが農村ビジネスサポートセンター等と連携した募集の周知。 ・農大HP等を活用した情報提供。			
		受講生の理解度80%以上	・6次産業化の基礎的な知識・技術に関する講義・演習の実施	○農産加工の基礎的な知識・技術習得のための講義及び演習を実施。 ○先進地視察研修 ○食品衛生強化研修 ○受講後のアンケート調査の実施。			
		・受講者1人(組織) 商品化を目指した1品目以上の試作	・商品づくりと試作研究への指導 ・新商品開発能力を高める試作研究への指導	○商品化につながる試作品づくり及び新製品の開発能力のための支援 ○個別計画作成支援。 ○試作研究演習及び評価等を実施。 ○先進地視察研修 ○食品衛生強化研修			
	農業者組織(農業青年クラブ、青年農業士、農業士)活動の活性化	・研修に対する満足度80%以上	○農業青年クラブ員を対象とした各種研修等の実施 ○参加後の聞き取り調査等の実施	○各種研修等の開催 ・農業青年会議 ・さが農業力向上セミナー ・農業青年冬季のつどい ○研修後、聞き取り及び反省点等のとりまとめ実施。			

目標	評価項目	令和2年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者研修の充実	農業者組織(農業青年クラブ、青年農業士、農業士)活動の活性化	・研修に対する満足度 やや満足以上の割合 80%以上	○青年農業士を対象とした各種研修の開催	○各種研修会 ・農業士との合同研修の開催 1回 ・先進地事例調査の実施 1回 ・県外研修への派遣 2名程度			
			○参加者へのアンケート調査実施	○研修後に参加者へのアンケート調査を実施			
	農業者組織(農業青年クラブ、青年農業士、農業士)活動の活性化	・研修に対する満足度 やや満足以上の割合 80%以上	○農業士を対象とした各種会議・研修会の開催	○各種会議の開催 ・役員会議 4回 ・佐賀県内JA代表者との意見交換会 1回 ・県農政関係課長との意見交換会 1回			
			○さが農業女子サミット実行委員会の開催	○各種研修会の開催 ・青年農業士との合同研修会 1回 ・九州・沖縄農業士研修会 1回(大分県) ・さが農業女子サミット(女性全体研修会) 1回			
		○参加者へのアンケート調査実施	○研修後に参加者へのアンケート調査を実施				

※到達した学生の割合とは、農業実習の評価基準における技術評点80～62点(100点満点で)以上の割合を80%以上とする